

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「詩を作って、読み合おう」 教材名「見たこと、かんじたこと」

2 単元の目標

見たことや感じたことを表す語句を集め、自分の詩の中で使える。友達と詩への感想を伝え合い、思い浮かんだ様子を手がかりに自分の表現のよいところを見付けられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①見たことや感じたことを表す語句を集め、自分の詩の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、友達と詩への感想を伝え合い、思い浮かんだ様子を手がかりに自分の表現のよいところを見付けている。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

見たり聞いたり触れたりしたときの発見を言葉にし、友達がその詩のどの表現から様子を思い浮かべたかを伝え合う。詩らしく見せる改行だけで満足せず、作者が表したかったことと読み手に伝わったことを比べる。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

読み手は印象に残った言葉を示し、そこから浮かんだ様子を話す。作者は意図を後から伝える。書けない児童は観察した動きや音を口で話し、その言葉を教師と並べる。おおむね満足できる状況は、友達と詩への感想を伝え合い、思い浮かんだ様子を手がかりに自分の表現のよいところを見付けているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な物や出来事を観察し、音・動き・色・触れた感を言葉で集める。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○特に表したい発見を選び、言葉を声に出して並べてみる。	知①（語句や内容の整理）
	3	○詩の下書きを作り、言い方や言葉の置き場所を変えて読み比べる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○詩を読み合い、印象に残った言葉とそこから浮かんだ様子を伝える。	思①（発言・学習記録）
	5	○感想を受けて、残す表現と直す表現を自分で選び、詩を仕上げる。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○完成した詩を交流し、友達の感想から気付いた自分の表現のよさを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

友達と詩への感想を伝え合い、思い浮かんだ様子を手がかりに自分の表現のよいところを見付けられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「友達の詩のどの言葉から、どんな様子が思い浮かびましたか。書いた人は、どんなことを表したかったのでしょうか」 【めあて】見たり聞いたり触れたりしたときの発見を言葉にし、友達がその詩のどの表現から様子を思い浮かべたかを伝え合う。 〈予想される児童の反応〉 ・ 音を表す言葉から動いている様子が浮かぶ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「友達の詩のどの言葉から、どんな様子が思い浮かびましたか。書いた人は、どんなことを表したかったのでしょうか」 自分の詩を友達と読み合い、どの語句からどんな様子が浮かんだかを伝える。書き手は表したかったことと聞いた感想を比べ、自分の詩のよい表現に印を付け、そう考えた理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 音を表す言葉から動いている様子が浮かぶ。 ・ 同じ言葉が続くと何度も聞こえる感じがする。 ・ 自分が伝えたかったところを友達が見付けてくれた。	読み手は印象に残った言葉を示し、そこから浮かんだ様子を話す。作者は意図を後から伝える。書けない児童は観察した動きや音を口で話し、その言葉を教師と並べる。 想定する難しさ：よかった、おもしろいだけの感想になる。行を短くすれば詩になると思う。読み手の好みに合わせて全て直そうとする。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 友達と詩への感想を伝え合い、思い浮かんだ様子を手がかりに自分の表現のよいところを見付けている。(自作の詩・読み合いの感想・よい表現に付けた印と理由)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 自分が伝えなかったところを友達が見付けてくれた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「友達の詩のどの言葉から、どんな様子が思い浮かびましたか。書いた人は、どんなことを表したかったのでしょうか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重